

第2回文京区アカデミー推進協議会

日時：平成24年11月26日（月）

午後6：30～8：30

場所：文京シビックセンター24階

区議会第1委員会室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

第2回 アカデミー推進協議会会議録

(敬称略)

「委員」

会 長 水越 伸
副会長 久松 佳彰
委 員 野口 洋平
委 員 梶田 慶輝
委 員 檜崎 華祥
委 員 白井 圭子
委 員 田辺 武之
委 員 松本 泰之
委 員 森岡 隆
委 員 枝川 千波
委 員 小林 博
委 員 中村 成一
委 員 野村 宣子
委 員 東田 英輔
委 員 曳地 由紀雄

「事務局」

アカデミー推進部アカデミー推進課長 柳下 幸一
アカデミー推進部観光・国際担当課長 富永 玲子
アカデミー推進部スポーツ振興課長 古矢 昭夫

○**水越会長**:第2回アカデミー推進協議会を始める。出席状況と資料についての確認を事務局にお願いする。

○**事務局**:出欠状況の確認。資料の確認。

○**水越会長**:本日の議題は、委員の意見を元に、評価をまとめること。事務局案では、各分野別目標ごとの取組状況として5段階評価をつけ、その後課題・改善事項・今後の方向性をまとめる形式になっているが、これで良いか議論する。この評価は今後どのような場に提出されるか、事務局に説明をお願いする。

○**事務局**:区にはいくつかの個別計画がある。数値目標の定められている個別計画なら5段階評価、あるいは文章表現での評価をするものと様々ある。協議会で評価をいただいたものについては来年の区議会で報告を行う予定である。

○**曳地委員**: 若干の補足を。この評価については区議会で報告を行うほか、ホームページにもアップし、誰でも見られるようにする予定である。区の計画の評価は、基本構想実施

計画については指標が定められているため、評価は機械的にできる。教育委員会で行っている点検評価では、そのような指標がないため、文章表現での総合評価が行われている。

○水越会長：仮に文章表現で評価を行う場合には手順はどうか。

○曳地委員：事務局でまとめ、委員会で承認をいただくことになる。

○水越会長：5段階評価ではなく文章表現での評価を行うこととし、文章表現の部分については、委員のご意見等を事務局でまとめ、最後の協議会において修正し承認するということでよろしいか。

(異議なし)

○水越会長：では個別の議題を討議する。委員からの意見について各分野を担当する課長より説明とコメントをいただきたい。

○柳下課長：資料第7号に基づき、生涯学習分野について説明。

○水越会長：ここまでで委員より意見をいただきたい。

○野口委員：各委員の意見は多岐に渡り、課長からの説明も多岐に渡っている。むしろ説明としては、それぞれの分野について委員の意見を踏まえ、各課長の考える自己評価と課題を述べていただいたほうがいい。

○松本委員：私も中身を十分にわからないまま委員として意見を書いている部分があるので、事務局としての考えを聞かないと先に進まないのではないか。

○水越会長：今の委員の意見を参考にスポーツの分野の説明をお願いしたい。

○古矢課長：資料第7号に基づきスポーツの分野について説明。

○水越会長：それでは次の分野の説明をお願いしたい。

○柳下課長：資料第7号に基づき文化・芸術の分野について説明。

○久松副会長：アカデミー推進計画事業は継続中であり、我々が言えることは、事業が進捗しているか、あるいはもう少し力を入れたほうがよいかであって、5年間の期間が終わっていないことについて、現時点で計画の水準を満たしているか満たしていないかを判断するのは難しい。

○東田委員：現時点で計画の水準を満たしているかではなく、計画事業が進んでいるか、もう少ししたほうが良いかを判断し、様々な委員の提案の中で特に取り入れるべきものを課題・改善事項・今後の方向性としてまとめるのがよいのではないか。

○水越会長：5年で実施していく計画事業に課題があって1年遅れるということが社会的には往々にしてある。23年度には明らかにできなかったということはあるか。

○柳下課長：23年度は震災の影響があって施設が使えない等、事業が縮小を強いられた部分はある。相談機能の充実については十分に進んでいない。しかし23年度に明確にできなかったということはないと思っている。

○古矢課長：スポーツに関しては国体があったために、人員と資源が取られ、新規事業の進捗には厳しい環境にあった。障害者スポーツについては何年かかけて取り組んでいきたい。

○水越委員：震災と国体については、本評価を考える上での文脈として考慮できるとよい。

次は観光の分野の説明をお願いしたい。

○富永課長：資料第7号に基づき観光分野について説明。

○東田委員：観光という章立てをしているのは経済的な意味での観光振興を図っていききたいという趣旨か。

○富永課長：文京区の場合は経済振興が第一目的ではなく、文化、歴史的な資源との連携を重視している。経済的な意味での観光振興をしないというわけではない。

○野口委員：文京区のように観光が文化に位置づけられている自治体は全国的にも珍しい。それは産業の衰退著しい都市とは違って、文京区には産業振興のために観光に取り組む必要がないくらいゆとりがあるからだ。情報発信が課題だと言われているが、情報発信ということは情報をブッシュすることに限らない。全国で起こっていることは、観光資源として人に紹介しようと思っていた資源が、いつの間にか消滅しているということだ。従って、誰かが見に来たときに詳しく丁寧に紹介できるように、今ある資源を整理していくことも大事な情報発信だ。何が文京区はすごいのか我々が分かっている必要はない。また、MICEは地域を売ることであるからこれについても取り組まれない。これから全体として大きな視点でどういうことができているのか見ていきたい。

○枝川委員：実際に評価するのであればもう少し詳しく事業を知りたかった。数値的なものが無い中での評価は難しい。観光に限って言えば情報発信、人材育成が課題と思われる。野口委員の言われたように、文化資源を磨きあげることには賛成である。情報発信という意味では民間の広報力は極めて強い。例えばNHKはいつでも取り上げるべきネタを欲している。NHK等とネットワークを構築し、能動的に広報することが必要ではないかと思った

○水越会長：次は国際交流の分野の説明をお願いしたい。

○富永課長：資料第7号に基づき国際交流分野について説明。

○野口委員：分野別目標3の「外国人が快適に暮らせる環境づくり」について、取り組みにくい課題であることは確かだが、「暮らす」と考えると大げさになるので「過ごす」と読み替えたらいいいのではないか。そうすれば、観光で長期滞在する外国人等のために、やることはたくさん見えてくるのではないか。

○久松副会長：私は国際交流分野の担当でずいぶん厳しいことを言ってきたが、1.5人でこれだけの事業をやるのは大変だ。人員の拡充をお願いしたい。また、生活相談は一部広報課の仕事ということだが、この分野で他部署が実施している事業を国際交流担当は視野に入れて、これに相乗りする形でいいのではないか。

○水越会長：国際交流分野に限らず、アカデミー推進部の人員は各分野少ない

○小林委員：国際交流分野では、事業名に再掲の部分が多かったので事業が少ないと思っていた。事業が少ないというのが現状か。

○富永課長：他の分野に比べると事業が少ないと思う。一番大きなイベントは国際交流フェスタ。そして、国際理解推進講座、地域活動連携事業年、英語観光ガイドツアー、姉妹都市交流事業、不定期だが姉妹都市公式訪問団受入れ、中国と韓国の都市との連絡調整を行っているというのが国際交流事業の全体像である。

○**水越会長**：次回の日時は12月17日6時30分。評価をとりまとめる。何らかの形で今日の議論をまとめて評価にしていく。久松副会長から提案いただいたことだが、評価シートまとめを付録資料としてつけたらいいのではないか。委員の意見を伺いたい。

○**野口委員**：計画を進めていく上で課題はあるし、進められる事業も進められない事業もある。区側の説明と我々の評価を併記することがいいのではないか。

○**森岡委員**：各事業について、項目別に細かい情報が欲しかった。そして、委員として現場を見るのも必要だと思った。

○**東田委員**：我々もたくさんの意見を出しているが、各事業については、実現可能性の問題もあるので、生の意見をそのまま出すというよりは、まとめる際に一度事務局で精査していただいた方がいい。

○**榊田委員**：生涯学習事業では、人材育成という点では5年計画の初年度で300名くらいの人材を育成し、様々な事業を実施している。指定管理者とボランティアの力で成り立っている。それによって生涯学習一日フェア等を実施できている。初年度であり、一定の評価もあると思うが、もう少し力を入れたい、もう少し資源投入して欲しいというような意見にした方がいい。そうでなければ極端に厳しい評価になってしまう。

○**水越会長**：まとめとして確認させてほしい。今年度は5段階評価をしないこと。全分野に渡る総括的な評価をつけること。評価シートのまとめをつけること。なお、評価シートに書いた意見で個別に修正があれば、各委員は事務局に言っていただきたい。それでよろしいか。それでは、事務局は以上の要領で次回の資料を用意してほしい。